

## 閉鎖性海域における水環境改善技術分野の進捗状況及び来年度の方針について

### 1. 平成21年度の事業報告

#### (1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

21年 5月20日	第1回WG開催（非公開） （実証機関の選定、実証対象技術への選定希望技術の募集結果、国負担体制における実証試験計画について）
7月 2日	第2回WG開催（非公開） （実証対象技術の審査、実証試験計画について）
22年 1月15日	第3回WG開催（非公開） （平成21年度実証試験実施状況、平成22年度の実証事業の進め方、平成22年度実証運営機関の選定について）
3月24日	第4回WG開催 （平成21年度実証試験結果の検討）

（WG検討員名簿は別紙参照）

#### (2) 実証試験状況等

実証機関：呉市

（実証対象技術）

- ①複合的沿岸環境改善技術

実証機関：三重県

（実証対象技術）

- ①株分けによるアマモ種苗大量生産と種苗移植によるアマモ場造成技術

実証機関：財団法人港湾空間高度化環境研究センター

（実証対象技術）

- ①転炉系製鋼スラグ製品による沿岸域の環境改善技術
- ②製鋼スラグを用いた藻場造成・水質改善技術

## 2. 来年度の方針

### 〔課題〕

- ・ 実証機関が想定する試験内容や設定する試験区域等の試験条件では、必ずしも技術開発者の希望する実証試験が実施できない可能性がある。
- ・ 試験手数料を負担したうえ実証試験を希望する対象技術が非常に少ない。

### 〔改善策〕

- ・ 実証機関の公募に先立ち、技術開発者等から実証試験を希望する技術を募集し、その結果を実証機関公募時に提示することにより、技術開発者の希望に添った試験実施に至ることができる可能性が高くなる。
- ・ 試験手数料を負担しても試験実施の希望が得られる仕組みづくりについては、今後の課題である。

### <今後の予定>

- 実証運営機関の選定（4月）
- 実証機関の選定（4月）
- 実証対象技術の募集（4月下旬）
- 実証対象技術の選定（5月）
- 実証試験計画の策定、実証試験の開始（6月～）

平成21年度環境技術実証モデル事業検討会  
閉鎖性海域における水環境改善技術ワーキンググループ  
検討員名簿

上嶋 英機	広島工業大学環境学部地域環境学科	教授
岡田 光正	広島大学大学院工学研究科	教授
中嶋 昌紀	大阪府環境農林水産総合研究所水産研究部	主任研究員
中村 由行	独立行政法人港湾空港技術研究所	研究主監
西村 修	東北大学大学院 工学研究科	教授
松田 治	広島大学	名誉教授